

平成22年度 第1回倉敷市地域包括支援センター運営協議会会議録

- 1 日 時 平成22年7月1日(木) 13:30~15:00
- 2 場 所 ぐらしき健康福祉プラザ 3階視聴覚室
- 3 出席者 15名
- |    |         |                    |
|----|---------|--------------------|
| 委員 | 秋山 格一   | (倉敷市老人クラブ連合会)      |
| 委員 | 石合 瑞恵   | (岡山県介護支援専門員協会倉敷支部) |
| 委員 | 川井 進    | (岡山弁護士会)           |
| 委員 | 川上 富雄   | (岡山県社会福祉士会)        |
| 委員 | 國友 澄江   | (倉敷ねたきり・認知症家族の会)   |
| 委員 | 甲加 和歌子  | (岡山県薬剤師会倉敷支部)      |
| 委員 | 兒山 和子   | (倉敷市栄養改善協議会)       |
| 委員 | 近藤 康弘   | (倉敷歯科医師会)          |
| 委員 | 田辺 昭夫   | (倉敷市議会保健福祉委員会)     |
| 委員 | 西原 洋浩   | (倉敷市連合医師会)         |
| 委員 | 長谷川 隆志  | (岡山県備中県民局健康福祉部)    |
| 委員 | 東入来 真夕美 | (岡山県看護協会倉敷支部)      |
| 委員 | 平松 富美子  | (岡山県老人福祉施設協議会)     |
| 委員 | 松尾 忠昭   | (倉敷市民生委員児童委員協議会)   |
| 委員 | 山内 宣夫   | (倉敷市社会福祉協議会)       |
- 4 欠席者 1名
- |    |        |               |
|----|--------|---------------|
| 委員 | 佐藤 千津子 | (倉敷市愛育委員会連合会) |
|----|--------|---------------|
- 5 事務局 12名
- |       |  |
|-------|--|
| 森脇 正行 | (倉敷市保健福祉局保険部長)                               |
| 北山 卓  | (倉敷市保健福祉局保険部次長)                              |
| 三宅 明彦 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課長)                          |
| 山本 文男 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課主幹)                         |
| 光田 武道 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課管理係長)                       |
| 神谷 茂雄 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課主事)                         |
| 橋村 和樹 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課主事)                         |
| 太田 康代 | (倉敷市保健福祉局保険部介護保険課課長主幹<br>兼倉敷市地域包括総合支援センター所長) |
| 塩見 一好 | (倉敷市地域包括総合支援センター主任)                          |
| 高原 寛子 | (倉敷市地域包括総合支援センター主事)                          |
| 岡部 雅恵 | (倉敷市地域包括総合支援センター主任ケアマネジャー)                   |

川越 幸治（倉敷市保健福祉局福祉部高齢福祉課主任）

6 開 会

7 委員自己紹介

8 事務局紹介

9 会長、副会長の選出

互選により川上委員が会長に、松尾委員が副会長に就任。

10 議 事

川上会長が議長として議事進行。

**（1）平成21年度高齢者支援センターの活動報告等について**

- ・ 高齢者支援センター事業の実施状況
- ・ 介護予防ケアマネジメント事業
- ・ 総合相談手段別件数
- ・ 総合相談実績
- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント事業
- ・ ケアマネ連絡会・交流会の実施状況
- ・ 教室等の実施状況
- ・ 会議・研修等の実施状況
- ・ 指定介護予防支援業務実施状況

事務局より、資料に基づいて説明。質疑応答は、次のとおり。

（委員A）高齢者支援センター毎の総合相談件数実績は、管轄地域の高齢者人口のいたい9割ぐらいが目安というふうに読めます。高齢者支援センターが始まり5年ぐらい経っていますので、だいたい定着してきていると思います。ただ、高齢者支援センターによって、件数が多いところと少ないところがあります。傾向や実態について、全体としてどのように捉えられていますか。

（事務局）高齢者支援センターによって相談件数は差が出ています。地域への浸透もいくらか影響しています。職員が定着してきている高齢者支援センターと、職員の変更等によって定着が難しい高齢者支援センターがあります。また、地域の意識や状況によっても違います。非常にスムーズに浸透できる地域と、なかなか入り込めていけない地域があります。色んな組織の中に入って行って、社協等の力を借りて地域の中になるべく浸透するようPRしています。また、移動相談会ということで、高齢者支援センターがスーパーの店頭でPRを行くなどしています。

(委員B) 相談件数の計というのは延人数ということでよろしいですか。例えば、1人が5回相談した場合は、5回と記載されるということでよろしいですか。相談に行ったことのある高齢者の割合の把握はできていないということでもよろしいですか。

(事務局) はい。同じ方が何回か相談をされると全部カウントされています。9割の高齢者が相談を受けているという意味ではありません。

(委員C) 相談者の数については、小地域ケア会議のでき方にも問題があると思います。小地域ケア会議の設立をお願いにいても、なかなかできない地域もあります。既存の組織があった場合、そこに話を持っていても、なかなか受け入れてもらえません。それから、小学校区と行政区画が入り組んでいるところは、小地域ケア会議を設立していただくのが困難です。学区制とか行政区画とかが、最終的には大きな壁になっているところがあります。私は、運営協議会、地区会議、小地域ケア会議にも出ていますが、様々なところで地域の事情にぶつかってくるわけです。

(議長) 前年度比で事業の件数も伸びていると思います。各高齢者支援センターが頑張っている、と感じています。むしろ、3人とか4人とかの人員で、これだけの実績をあげているということについて、どれぐらいの負担なのかが心配なぐらいです。

(委員B) 職員の負担ということでお聞きしますが、残業の状況はどのようになっていますでしょうか。

(事務局) 残業といっても難しいのが、地域包括支援センター(高齢者支援センター)は、包括業務と、指定介護予防事業所として要支援1, 2のプランを作っています。過去に各高齢者支援センターに状況を確認してもらいましたが、立ち上げ当時は予防プランが非常に多くて、高齢者支援センターの職員は非常に残業が多かったです。高齢者支援センターの職員に、上限75件という介護予防プランの制限をかけさせていただいてから、少しずつ状況も良くなってきています。まだまだ残業をしている高齢者支援センターもありますし、高齢者人口によって高齢者支援センター状況に差が出ているのも事実です。きちっとした統計を取っていません。

(議長) 委託事業の部分と、介護予防プランの部分というのは別収入なんですよ。3職種の職員が予防プランを一杯作りだすと、いくらでも残業になるけれども、それは委託している業務ではなくて、予防プラン料が別に入る部分です。委託している業務の部分だけで残業しているのかどうなのか、はっきりは言えません。ただ、6千人の高齢者人口を抱えている高齢者支援センターと、千数百人という高齢者支援センターでは格差はあります。人口を多く抱えている高齢者支援センターは、委託業務をやるについても、人口が少ないところの2倍3倍の業務量になっていくのかなという気がします。

(委員A) 25高齢者支援センターに分けて委託する際に、職員の定着をどうするかというのは、ずっと前からの課題で、退職や異動に伴う職員の入れ替わりに

伴い、色々なことが起きていると思います。職員の力量や知識の蓄積が高齢者支援センターがどうなるかの大きな試金石だと思います。私が聞いているところでは、非常に事務が煩雑で、そのことの方に相当時間を取られるという声をよく聞きます。高齢者と向き合うということが一番大事な仕事ですけれども、さまざまな報告や、事業計画を出すと言われる。それはきちっとやらなければいけない部分だろうけれども、簡素化をして、かつ公正公平にやるように指導をするなど、もうちょっと煩雑さを軽減するようにできないのでしょうか。聞くところでは、事業計画も、地域包括総合支援センターに提出するのと介護保険課に出すのと2つあると言うんです。ほとんど内容は一緒なのに様式が違うから2つ出さなければいけない。こうしたものは軽減できるのではないかと思います。

(議長) 確かに、この実績報告にあがっているように、会合をやったときに、1名単位まできっちり人数を把握して、記録を全て残されています。相談件数も全て分類をして残しています。この事務の記録の部分とかというのは、確かに負担はあるだろうなと思います。何か地域包括総合支援センターの方で、事務的なことに関する指導とか助言とかはされていますか。

(事務局) 事務的なことにつきましては、県、国への実績報告はとしてどうしても出さないといけないものもあります。内容が大雑把になりますと、報告内容が25高齢者支援センターで捉え方が違ったり、出てきた実績に大きな差が出てくるということで、実際の包括活動がなかなか見えなくなるので、段々と報告内容が細かくなってきているのは事実です。なるべく簡素化できるように、マニュアルも作り、一度で報告が済むようにさせていただこうと思っています。活動計画の方も、介護保険課へ出す計画は、課題とか大きな活動計画で、総合へ出す計画は月に何をやるかという簡単な計画書になっています。できるだけ増えないようにはさせていただこうと思いますが、高齢者支援センターの活動を地域に知っていただくためになる基本的な資料を集めようとすると、どうしても高齢者支援センターの方に負担をかけているという傾向はありますが、簡素化できるところは努力させていただこうと思います。

#### ・収支の状況

事務局より、資料に基づいて説明。質疑応答は、次のとおり。

(議長) 市からの委託事業の部分は、ほぼ9割ぐらいが人件費で使われているという感じでしょうか。先ほど申し上げた介護予防プランというのが、1件4千円ぐらいで、掛けるこれだけのプラン数を持つてるということで、収入があつて、そのプランを立てるのに、3職種だけでなくプランナーさんも各高齢者支援センター入っていただいていますので人件費が予防支援事業の方でも出てるということです。

(委員B) 予算と決算の比較というのは、運営協議会ではあまりしないのですか。

(事務局) これまでの形で今回も作成させていただいた。ご指摘につきましては、検討させていただければと思います。

(議長) この後の議題で事業計画のところにもありますが、年度始めに各高齢者支援センターに包括的支援事業等を実施するにあたっての運営委託料の額というのは出ているわけです。ただ、指定介護予防支援業務の部分については、これは市の方で予算を立てるというのは無理ですよ。各高齢者支援センターの方では、整ってらっしゃるのかもしれませんが。可能な限り、来年度以降、予算額に対してどういう収支の状況になったのかという表の示し方ができればと思います。

## **(2) 平成21年度高齢者支援センターの評価について**

事務局より、資料に基づいて説明。質疑応答は、次のとおり。

(委員B) 自己評価表として各高齢者支援センターが報告してきた表とは別に、地域包括総合支援センターの方で評価をしたということですか。

(事務局) 自己評価も参考にさせていただいて、自己評価の備考欄に理由付けをしていただきましたので、その内容等を踏まえて地域包括総合支援センターで作成をさせていただきました。実際には、各高齢者支援センターからの自己評価はAランクばかりで来ましたので、どの辺りをAランクにするかという辺りも、書いてある内容によって幾らか参考にさせていただきました。

(委員B) この表の中の最後の左側に「自己評価の目安」と書いてあるのは、これは間違いですか。

(事務局) そうですね。今回の地域包括総合支援センターでの判定です。

(議長) 最後の各高齢者支援センター毎のABCの数が気になるころですが、かなり高齢者支援センターによって差が表れているかと思います。

## **(3) 平成22年度高齢者支援センターの活動事業計画について**

- ・ 高齢者支援センターの活動事業計画について
- ・ 高齢者支援センター運営委託料契約額

事務局より、資料に基づいて説明。質疑応答は、次のとおり。

(議長) 小学校区の7割で小地域ケア会議が立ち上がっているという現状には驚かされます。各高齢者支援センター、困難な地域もあると先ほど伺いましたが、頑張っていらっしゃるな、と思いました。

## **(4) 更新制度（審査）の実施について**

- ・スケジュールについて

事務局より、資料に基づいて説明。質疑応答は、質疑なし。

## 全体を通して

(事務局) 事業評価の提示を各高齢者支援センターにさせていただこうと思っています。昨年は、全体の項目毎のABCの数と、その高齢者支援センターのABCランクを書いたものを持って、高齢者支援センターに指導に入らせていただきました。今年度も、このような形で高齢者支援センターに入らせていただいたらよろしいでしょうか。

(議長) この評価は20年度もやりましたか。

(事務局) はい、20年度から。

(議長) この評価の結果を持って、20年度、21年度と指導に入っているわけですね。改善され成果が上がっているのでしょうか。

(事務局) はい、上がっております。同じCランクの項目が続いている高齢者支援センターも、数か所の部分では項目によってありますので、その辺のところは再度指導して回りたいと思います。

(委員D) 地域の方々から、地域包括支援センター(高齢者支援センター)よくやってくれている、地域の課題の解決に直接つながっている例が段々出てきた、という声も聞こえてきましたので、是非ともこのまま頑張っていたらと思います。

(議長) これだけの実績を3人体制であげられているっていうのは、本当にご負担で、歯を食いしばって頑張ってるんだろうと思いますので、バンドアウトしてしまわないように、地域包括総合支援センターの方からも、市の方からも、金銭面あるいは事業の実施方法のアドバイスなど、支援を引き続きしていただければと思います。

## 11 閉会